

学生の確保の見通し等を記載した書類

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

① 定員充足の見込み（概要）

洗足学園音楽大学（以下、「本学大学院」）は、教育基本法及び学校教育法にのっとり、学部教育の基盤の上に、音楽の理論及び応用を教授研究し、深奥をきわめて、専攻分野における研究能力、又は高度な専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うとともに、建学の精神に基づいて人格を陶冶し、謙愛の徳を備え、気品高く、国際的視野に立ち、実行力に富む人材を育成し、もって文化の向上に寄与することを人材養成及び教育研究上の目的としている。

本学大学院では、大学院教育の充実を求める政策、産業界や地域社会からの期待に加えるとともに、留学生の獲得を中心とした独自の改革と募集戦略を実施しており、それらが受験生のニーズとマッチし、志願者数・入学実績が年々増加している。志願倍率は、令和2年度に2倍を超え、またここ2年は実質倍率も上がってきている。中でも、作曲専攻が、この2年間で志願者が4倍、入学者が3倍強と大幅に増加しており、今後も継続して学生確保していけると見込んでいる。

② 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

大学院全体の過去5年間の入学者数平均は66.2名であり、特に過去3年間の平均は71.7名と安定して入学者を確保している。令和2年度については78名と前年度対比10名増加、定員変更後の入学定員(64名)にあてはめると大幅に上回っている。その様な中、受験者数91名のうち合格者数82名と少しながら実質倍率(1.11倍)も上がってきている。この様な状況の最大な要因としては、作曲専攻の志願増が挙げられる。

作曲専攻は、志願者数が平成30年度9名、令和元年度19名、令和2年度36名、入学者数が平成30年度9名、令和元年度17名、令和2年度28名とこの2年間で志願者が4倍、入学者が3倍強と

大幅に増加している。その内、平成31年度より新設した留学生入試は、志願者数が令和元年度15名、令和2年度33名、入学者数が令和元年度14名令和2年度25名とその志願者増に大きく寄与している。

過去5年間の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、入学定員、定員超過率の推移は図表1のとおり。

【図表1】 学生募集状況の推移 (単位：人、倍)

専攻	入学定員	平成28年度				平成29年度				平成30年度				令和元年度				令和2年度				過去5年平均							
		志願	受験	合格	入学	志願	受験	合格	入学	志願	受験	合格	入学	志願	受験	合格	入学	志願	受験	合格	入学	志願	受験	合格	入学				
器楽	28	46	46	45	44	39	39	38	36	48	48	48	45	47	46	46	45	38	38	36	33	43.6	43.4	42.6	40.6				
声楽	12	11	11	11	11	15	15	14	14	13	13	13	11	8	7	6	5	12	12	12	11	11.8	11.6	11.2	10.4				
音楽教育学	4	0	0	0	0	2	2	2	2	5	4	4	4	2	2	2	1	6	6	6	6	3	2.8	2.8	2.6				
作曲	2	4	3	3	2	7	7	7	7	9	9	9	9	19	19	18	17	36	35	28	28	15	14.6	13	12.6				
合計	46	61	60	59	57	63	63	61	59	75	74	74	69	76	74	72	68	92	91	82	78	73.4	72.4	69.6	66.2				
志願倍率(志願者数/入学定員)		1.33				1.37				1.63				1.65				2.00				1.60							
実質倍率(受験者数/合格者数)		1.02				1.03				1.00				1.03				1.11				1.04							
入学定員超過率(入学者数/入学定員)		1.24				1.28				1.50				1.48				1.70				1.44							
留学生入試																													
専攻	入学定員	令和元年度		令和2年度																									
		志願	入学	志願	入学																								
器楽		13	12	16	15																								
声楽		1	1	3	3																								
音楽教育学		2	1	6	6																								
作曲		15	14	33	25																								
合計		31	28	58	49																								

また、令和2年度入試を変更後の定員数で試算した倍率、及び過去5年平均の数値、留学生入試における志願者数、入学者数の推移は、図表2のとおり。

【図表 2】 定員変更後の学生募集の試算（単位：人、倍）

(新定員数)						
専攻	入学定員	令和2年度				
		志願	受験	合格	入学	
器楽	28	38	38	36	33	1.2
声楽	12	12	12	12	11	0.9
音楽教育学	4	6	6	6	6	1.5
作曲	20	36	35	28	28	1.4
合計	64	92	91	82	78	1.2

過去5年平均			
志願	受験	合格	入学
44	43	43	41
12	12	11	10
3	2.8	2.8	2.6
15	15	13	13
73	72	70	66

留学生入試					
専攻	入学定員	令和元年度		令和2年度	
		志願	入学	志願	入学
器楽		13	12	16	15
声楽		1	1	3	3
音楽教育学		2	1	6	6
作曲		15	14	33	25
合計		31	28	58	49

1.60
1.04
1.44

志願者増の背景としては、海外・アジア(特に中国、韓国)において、コンピュータ音楽、劇伴(映画、アニメ等の音楽)の需要が多く、現地の大学で学んだ学生が更なるスキルアップを目指して、世界トップレベルの日本、その中でも充実した教育内容、施設・設備を誇る本学へ多く志願してきており、作曲専攻は、令和2年度留学生入試での入学者が25名と大学院全体の入学者の89.3%を占める。本学は令和元年度より国際交流部を新設し、海外への広報を強化しており、この流れが続くと思料されるため、作曲専攻の定員変更後も継続して学生確保していくことが可能と見込んでいる。

なお、他専攻の入学者数については、毎年上下はあるものの、令和2年度の入学者数については、各専攻の入学者数は新入定員の1倍前後となっていることから定員の変更は行わない。

(2) 学生確保に向けた具体的な取り組み状況

内部生及び外部生を対象とした大学院説明会を年に9回程度開

催しており、今後も継続していく。平成30年度の説明会参加者総数は55名であったが、令和元年度は93名と大幅に増加している(資料1)。増加の要因としては、説明会への参加に加えて個別体験レッスンも受講可能にする等、志願者のニーズに合わせた内容で実施していることが考えられる。

また、外国人留学生の確保に向けた取り組みとしては、日本国内で開催される留学生対象の進学説明会への出展に加え、海外における募集・広報活動の強化、国際交流部の設置等が挙げられる。

海外における募集・広報活動では、主に中国・韓国・台湾・マレーシア・タイ・アメリカ等において、日本留学フェアへの参加や、現地の大学・日本語教育機関等への訪問を行い、広報活動だけでなく、現地の動向調査等も積極的に行っている。さらに、国際交流部には外国人職員を複数名配置しており、日本語に加え、英語・中国語等の多言語で様々な対応が可能な環境を整えている。留学生の安定的な確保に向けて、今後も更に整備していく予定である。

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)

本学大学院は、学部教育の基礎の上に、音楽の理論及び応用を教授研究し、その奥深さをきわめて、専攻分野における研究能力、又は高度な専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うとともに、建学の精神に基づいて人格を陶冶し兼愛の徳を備え、気品高く、国際的視野に立ち、実行力に富む人材を育成し、もって文化の向上に寄与することを目的とし、次の各号にかかげる事項を教育目標としている。

- ① プロフェッショナルな演奏家、あるいは先端を行く音楽研究家、次代を拓く教育指導者としての専門的職業に必要な演奏・表現能力、あるいは研究能力を修得・開発すること。
- ② 幅広い国際的な視野に立った音楽活動・研究活動を実践できる実力をもった音楽家としての素養を具備すること。
- ③ 各自の自律性および個性を尊重し、専攻テーマに即した専門的・個別的な研究、あるいは社会的な貢献を目指した自発的な

企画・研究を推進すること。

この人材養成及び教育研究上の目的を達成するため、大学4年間で培った専門性・専門実技、多様性、協働する力、社会貢献・実践的態度、論理的思考力・問題解決力を更に研鑽し、揺るがぬ強い信念を持ち、自分自身の目標を達成する為、人材養成及び教育研究上の目的に沿って教育を展開していく。

作曲専攻においては、様々な編成での創作に必要な楽器の奏法に関する知識や作曲理論、作品分析に関する能力を身につける「作曲コース」と社会のニーズに合った音楽を創作するための高度なテクニックについて修得する「音楽・音響デザインコース」があり、作曲家としての個々の創作活動や研究をサポートできる体制、また、プロとして活躍できる作曲家、録音エンジニアを育成するプログラムが整備されている。

現代の音楽制作においてはコンピュータをはじめとする様々なデジタルテクノロジーが用いられ、それらを柔軟に使いこなす操作能力が必須となっている。クラシック・ポップスなどの従来型の音楽からアニメやゲーム音楽などの最新の映像音楽に至る楽曲制作を行うサウンドクリエイター、映像コンテンツの制作や効果音の作成ができるメディアクリエイター、スタジオレコーディングやホールレコーディングなどを中心に録音に関する技術を修得するレコーディングエンジニア、コンサート・ライブにおける音響(PA・SR)を担うサウンドエンジニア等々を養成する作曲専攻音楽音響デザインコースでの学びは今後の音楽制作を志す者の基礎的な学びとなると考えている。特に、新型コロナウイルス感染症の拡大を通じて、生音を享受する音楽からデジタルテクノロジーを介して音を享受する音楽へと時代が変貌しつつある。そのような時代において、高度で専門的なデジタルテクノロジーの操作能力に長けた音楽人材の養成が、新たな時代の音楽家養成機関にとってますます重要な使命となると考えている。

(2) 社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることの客観的な根拠

①学則変更の必要性

本学大学院は、平成12年の音楽研究科修士課程設置当初、4専攻（作曲、器楽、声楽、音楽教育学）に、7のコース（ピアノ、管楽器、弦楽器、打楽器、声楽、音楽教育学、作曲）を設置する組織構成としてスタートした。設置から今日まで教育研究の対象となる音楽分野の領域を広げ、ピアノ、オルガン、電子オルガン、管楽器、弦楽器、打楽器、和楽器、声楽、音楽教育学、作曲、音楽・音響デザインの多彩な11コース編成である。

これまでも本学大学院は、教育基本法及び学校教育法にのっとり、学部教育の基盤の上に、音楽の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめて、専攻分野における研究能力、又は高度な専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うとともに、建学の精神に基づいて人格を陶冶し、謙愛の徳を備え、気品高く、国際的視野に立ち、実行力に富む人材を育成してきた。ここ数年、特に作曲専攻への海外からの入学志願者の増加が非常に顕著であり、今後も更なる発展を遂げるため、高等教育機関として、社会からの需要が見込まれるデジタルテクノロジーを活用した音楽領域の教育研究活動を積極的に推進し、継続的に充実・発展、拡張させていく必要があると考えている。以下のような状況に基づき対応が必要なことから、作曲専攻の学生定員を増加させることとした。

②わが国における当該分野の状況

現在の音楽シーンにおいては、ストリーミングサービスが主流となっており、デジタルテクノロジーが必須となっている。そのような状況の中、作曲専攻においては高度なテクニックについて効率良く指導し、社会のニーズに合った音楽を創造することの出来る作曲家、あるいは録音エンジニアを育成に力を入れており重要な役割を果たしている。また、音楽コンテンツソフト自体からの売り上げが下がっている現状において、音楽ビジネスとしての収益モデルとしてのライブパフォーマンスへの注目が高まっている。そのような需

要に対しても、スタジオレコーディングやホールレコーディングなどを中心に録音に関する技術を修得するレコーディングエンジニア、コンサート・ライブにおける音響(PA・SR)を担うサウンドエンジニア等々を養成する作曲専攻での学びは今後の音楽制作を志す者の基礎的な学びとなると考えている。

③ 国際的情況・動向にもとづく外国人留学生の受入れ

中央教育審議会答申「グローバル化社会の大学院教育～世界の多様な分野で大学院修了者が活躍するために～」において、欧米のみならずアジアを含む諸外国の大学と連携し、日本人・外国人学生の垣根を越えた交流を通じた協働教育により、語学力を含むコミュニケーション能力や、異文化を理解し多文化環境下で新しい価値を生み出す能力を備えたグローバル人材を養成することが必要と述べられている。

本学大学院においては、外国人学生の増加が顕著に見られ、特に作曲専攻音楽・音響デザインコースは、中国、台湾、韓国を中心に、ゲーム音楽、アニメソング、劇伴を専攻する学生が増加している。これらのコンテンツについては、日本が誇る文化であり、自身の研究目標を実現するために、個々の研究テーマに合わせた自由度の高い、発展的なカリキュラムを編成するとともに、実践を重視した教育体制を整えている本学で学ぶ意義は大きい。また、日本人学生においても外国人学生との交流から新しい価値を生み出す環境であり、同答申が推進する内容に則している。

本学での研究活動を経て、卒業後は国内外問わず活躍の場が広がっている。国内においては、外国人学生を積極的に採用する企業も増え、近年ではゲーム会社、その他音楽関連企業への就職実績がある。また、海外、特に中国のゲーム会社、映画会社等においては、日本での研究成果が評価されるため、人材需要としては非常に高い。

このように、本学が掲げる教育目標のもと、国内外を問わず活躍する人材を輩出しており、グローバル化が進展する中で大学院が果たすべき役割を果たしていると考えられる。

④ 修了後の進路

本学大学院の最近3年間の就職実績は、平成29年度は16名、平成30年度は20名、令和元年度は25名であり、そのうち作曲専攻は、平成29年度は0名、平成30年度は1名、令和元年度は3名となっている。音楽分野であるため、演奏活動に就く者、講師、教員として音楽指導に就く者が多いが、一般企業への就職、国内外への進学など、前述の社会動向を踏まえ、活躍の場は広がっている。大学院就職（進学状況）全体は図表3のとおり、作曲専攻は図表4のとおり。

【図表3】 大学院就職（進学）状況【全体】

	平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
演奏活動	27	45.8%	13	23.6%	18	26.5%
講師	7	11.9%	8	14.5%	4	5.9%
教員	3	5.1%	3	5.5%	9	13.2%
自衛隊	1	1.7%		0.0%	1	1.5%
洗足学園職員		0.0%	4	7.3%	6	8.8%
一般企業	5	8.5%	5	9.1%	5	7.4%
国内進学【大学院】		0.0%	1	1.8%	5	7.4%
国内進学【別科】		0.0%	1	1.8%	2	2.9%
国内進学【学部】		0.0%	1	1.8%		0.0%
国外進学	1	1.7%	3	5.5%		0.0%
二期会等研究所	1	1.7%	4	7.3%		0.0%
帰国	2	3.4%	1	1.8%	1	1.5%
未決定（一時的な仕事含む）	12	20.3%	11	20.0%	17	25.0%
	59	100.0%	55	100.0%	68	100.0%

【図表 4】 大学院就職（進学）状況【作曲専攻】

	平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
演奏活動		0.0%	2	33.3%	2	25.0%
講師		0.0%		0.0%		0.0%
教員		0.0%		0.0%		0.0%
自衛隊		0.0%		0.0%		0.0%
洗足学園職員		0.0%	1	16.7%	1	12.5%
一般企業		0.0%		0.0%	2	25.0%
国内進学【大学院】		0.0%		0.0%	1	12.5%
国内進学【別科】		0.0%		0.0%		0.0%
国内進学【学部】		0.0%		0.0%		0.0%
国外進学	1	50.0%	1	16.7%		0.0%
二期会等研究所		0.0%		0.0%		0.0%
帰国	1	50.0%		0.0%		0.0%
未決定（一時的な仕事含む）		0.0%	2	33.3%	2	25.0%
	2	100.0%	6	100.0%	8	100.0%